

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	千葉県	市町村名	八街市	委員会名	八街市教育委員会
派遣日	令和 4年 7月 29日(金曜日) 13:00~16:00 13:10 接続テスト 13:30 研修開始、講師紹介 13:35~15:55 講義、質疑応答 15:55 御礼の言葉、諸連絡 16:00 研修終了				
実施方法	派遣 / 遠隔				
派遣場所	オンラインによる研修のため、講師は勤務地より参加 (宮城教育大学教育学部)				
アドバイザー氏名	市瀬 智紀				
相談者	・八街市教育委員会 教育部 学校教育課 ・八街市内小・中学校教員				
相談内容	1、初期(前期・後期)および中期の外国人児童生徒への理解と心がけ 初期~中期の指導段階の外国人児童生徒に対して、どのような考え方で支援をすればよいか 2、外国人児童生徒の学校生活のための環境づくりについて ① 外国人児童生徒のために、どのように学校・教室環境の改善と指導上の工夫をすればよいか ② 外国人児童生徒のために教室内・学校内外でどのような連携をはかっていけばよいか				
派遣者からの指導助言内容	1、初期(前期・後期)および中期の外国人児童生徒への理解と心がけ ・外国人児童生徒に対する指導の流れについては、教えていく段階や流れが非常に重要である。計画的に系統立てて指導しなければ、児童生徒の混乱を招くことになる。シラバスを活用し、認知力の発達段階にも考慮して指導をする。 ・「サバイバル日本語」の後は、認知力を高めていく必要がある。認知力を養うために有効な教材の紹介。 ・多様な場面で役立つサイトの紹介。サイトを活用することで、有効な手立てについて知ることができる。 ・教科指導における日本語は難しい。複雑な文や言葉が絡み合い、理解を難しくしているため、リライトし、余分な情報を外していくことが大切である。また、抽象的な言葉を外し、イメージが分かる具体物を見せるなどの工夫が必要である。 2、外国人児童生徒の学校生活のための環境づくりについて ・学校文書を保護者が理解できるようにする方法・サイトの紹介。 ・日本人児童生徒に向けた多文化共生教育の実践について。(宮城県での取り組みの紹介)				

(様式3)

	<ul style="list-style-type: none">・外国人児童生徒等教育担当を校務分掌に位置付ける方法についての紹介。担当者や学級担任が、一人で抱え込まない体制作りが大切である。・日本語指導担当教員の役割は、①児童生徒への教育活動②校内の連携・共通理解③家庭との連携・共通理解④外部機関・地域との連携である。・外国人児童生徒の背景は多様であるので、文化や習慣に理解を示し、配慮をしていく必要がある。・指導計画・指導履歴を共有することが重要である。教職員には人事異動もあり、校内の体制も変わるため、在籍学級担任や日本語指導担当教員も変わる可能性がある。誰が受け持っても児童生徒・保護者・教員共に戸惑わないようにする。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none">・指導や保護者とのコミュニケーションに有効なサイト、教材の情報は、一覧にして市内のどの教員でも使用できるようにしていきたい。・日本語指導担当教員が在籍していないが、外国籍の児童生徒の在籍がある学校のため、シラバスを周知し、活用していきたい。・多様な背景を持つ児童生徒受入れに際し、困りを抱える教員も多いので、今後は市内で情報交換や有効な手立てについて共有できる会議が必要不可欠であると感じた。・外部機関や地域と各校が連携できるよう、市として指導体制を強化していきたい。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。